

使用済田型の収集(2)

長年スコット・カタログを愛用しているが、これを通じて見る限り、米国での切手収集は、未使用が中心であることが分かる。特に、20世紀の後半までは、評価の中心が未使用にあって、使用済は「付け足し」の様だった。

その一方で、先進諸国の切手収集は、図入りアルバムが原動力となっていた。多くの収集家は、図入りアルバムの空白を埋めるために、ひたすら努力を続けていた。カタログ出版社も、カタログそのものの売上げは、大した収入にはならない。もっぱらカタログに連動した図入りアルバムを刊行し、これが主要な収入源となっていた。

図入りアルバムは、単片中心のものが基本だが、田型ブロックやカバー専用のもも作られ、これが収集を加速することとなった。そのため、田型収集のコレクションが、オークションなどでも売られるようになった。新規に田型収集を始める者にとっては、便利な足掛かりになったことは、言うまでもない。

私も、米国のオークションを通じて、こうした中古の田型コレクションを、何度か入手できた。すると、一点ずつ買う場合に比べて、はるかに安く、また効率良く収集を発展させることができた。

その一方で、米国切手でも昨今は、使用済に対する関心が高まる傾向がある。この結果、長らく据え置きだった使用済評価も、昨今は少しずつ見直されてきている。何十年も前に、米国の切手商から買った使用済み田型のコレクションも、最近取出してみてもカタログ評価を調べてみると、この差が見つかり、これも長寿の得かなと、悦に入る次第。1908年シリーズの中の、3例を紹介しておこう。

魚木五夫（日本郵趣協会名誉会員）



スコット #471 (9¢)
単片使用済 \$22.50
田型使用済 \$140.00



スコット #473 (11¢)
単片使用済 \$22.50
田型使用済 \$140.00



スコット #513 (13¢)
単片使用済 \$5.50
田型使用済 \$45.00